

経営比較分析表（令和6年度決算）

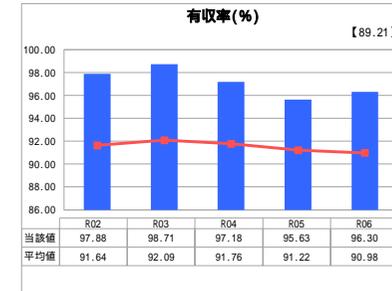
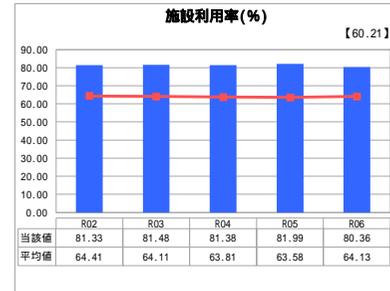
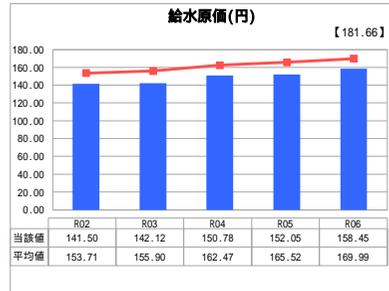
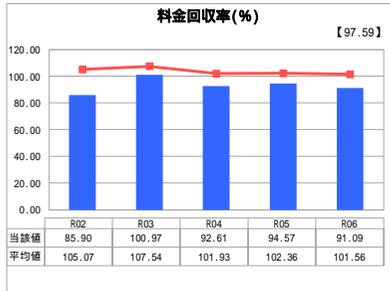
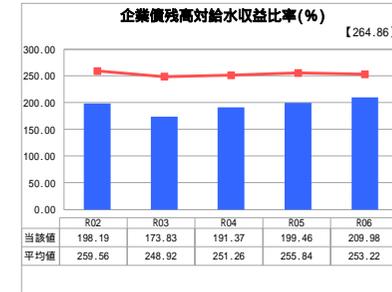
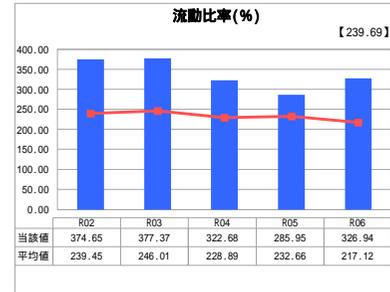
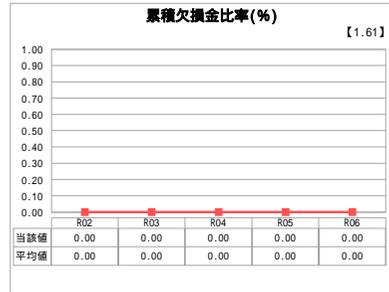
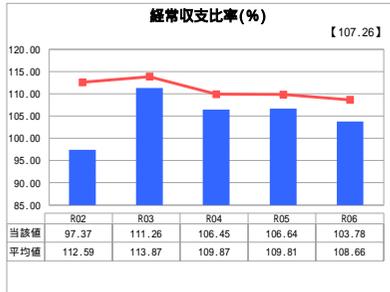
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	80.34	100.00	2,134	

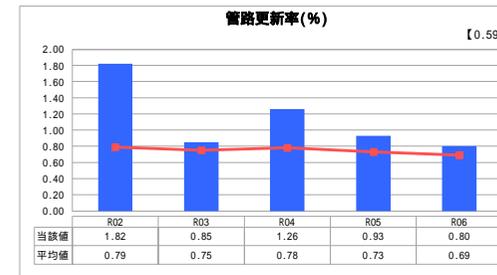
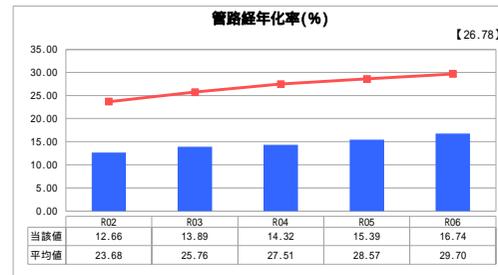
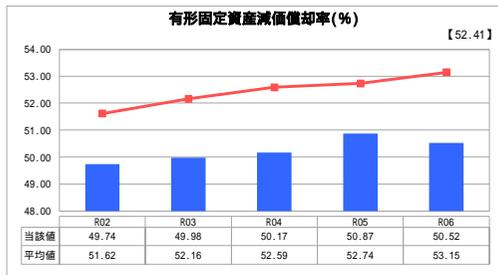
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
342,520	72.11	4,749.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
342,280	67.64	5,060.32

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
 数値は100%を上回り、経営の健全性を保っていますが、給水収益の減少に加え、人件費や物価の高騰に伴い費用が増加したことから、前年度と比較し指標が下降したものです。
流動比率
 数値は200%を上回り、支払能力はあるといえます。
企業債残高対給水収益比率
 類似団体平均と比較すると、良好な状況です。しかし、水需要の減少により給水収益が減少する一方、人件費や物価の高騰に伴う事業費の増加に加え、施設の更新需要も増加傾向のため、今後も上昇していく見込みです。
料金回収率・給水原価
 有収水量及び給水収益の減少に加え、物価高騰等の影響による支出の増加により、数値が悪化したものです。
施設利用率
 類似団体平均と比較すると、良好な状況ですが、一日平均配水量は減少傾向のため、施設のダウンサイジング等、水道施設の規模の適正化が必要です。
有収率
 類似団体平均と比較すると、高い有収率を確保しており、良好な状況です。しかし、経年的にやや下降傾向で推移しているため、計画的に更新を実施し、経年劣化による地下漏水の発生防止に取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
 使用年数が法定耐用年数の5割程度を超過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。
管路経年率
 計画的な管路の更新を行っているため、類似団体平均と比較すると、老朽化の度合いは低い状況です。しかし、値は増加傾向のため、着実に更新を進める必要があります。
管路更新率
 類似団体平均と比較すると、更新投資は多い状況にあり、当市の有収率の高さに繋がっていると考えられます。一方、管路経年率は上昇傾向にあり、経年劣化・老朽化が進行しているため、引き続き計画的な更新に取り組む必要があります。

全体総括

令和6年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえます。
 しかしながら、人件費や物価の高騰等により、工事費や維持管理費等の経費が増加したことに加え、有収水量の減少により給水収益が減少したことで、複数の指標の値が悪化傾向となっています。今後もこの傾向が続くことが見込まれるため、収益を改善する必要があります。
 施設については、老朽化の進行が続いていることから、財政状況を踏まえながら、引き続き計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジング等の施設規模の適正化による支出の見直し等に取り組むつつ、将来に渡り安定供給に努めていく必要があります。